

ヨーロッパではなぜ 歌と踊りが無い演劇が 生まれたのか？

—アジアから、これからの舞台芸術を考えるために—



歌舞伎、能、京劇、カタカリ等々、アジアの演劇的芸能の多くには歌と踊りが含まれていますが、西ヨーロッパではなぜか歌も踊りもない「演劇」なるものが成立し、それがここ一世紀ほどで世界化しました。より「リアル」で「自然」なものへと演劇が進化していった、という歴史観からは、なぜか身体的な技芸を見せない形式のほうが優れたものであるかのように見えてしまいます。

なぜこんな価値観が生まれたのか。そして、ポスト西洋時代に向けて、これをどう更新していけばいいのか。今年度行った授業と昨年刊行された著書をもとに、「西洋演技論史」という観点から、今日の舞台芸術のフレームワークについて、一緒に考えていきたいと思います。

【応答者】

稲継美保 (いなつぐみほ)

東京藝術大学在学中より演劇をはじめ、舞台を中心にフリーランスで活動している。

▼これまでに、サンプル、チェルフィッチュ、岡崎藝術座、バストリオ、オフィスマウンテン、東葛スポーツ、坂田ゆかり、篠田千明、川口智子、オル太、ヌトミックなどの作品に出演。また、海外ツアーにも多く参加し、2019年にはポーランドとの国際共同制作で演出家マグダ・シュベフト「オールウエイズ・カミングホーム」に出演するなど、国内外問わず幅広い役柄をこなし、枠にとられない活動を行っている。▼俳優としての演技だけではなく、生きていく上での演技やふるまい、模倣や語りの発生にも注目して、ワークショップやゼミなども主催している。▼2024年、学習院大学で横山義志さんが行っていた演習「歌と踊りのない演劇はなぜヨーロッパで生まれたのか～西洋演技論史の意義をさぐる～」に参加。



【講師】

横山義志 (よこやまよしじ)

舞台芸術研究(西洋演技論史)、ドラマトウルク、SPAC-静岡県舞台芸術センター文芸部、学習院大学・劇場創造アカデミー等非常勤講師、舞台芸術制作者オープンネットワーク(ON-PAM)理事。▼著書に *La grâce et l'art du comédien — Pourquoi le théâtre a-t-il exclu le chant et la danse ?* (『優美と演技術 演劇はなぜ歌と踊りを排除したのか』、Classiques Garnier社、2024)。日本語でも西洋演技論の通史を執筆中。

日時 2025年2月15日(土) 16:00~18:00

会場 座・高円寺 けいこ場(地下3階)

参加費 一般=500円(学生=無料) *当日清算

予約・問合せ aictjapan@gmail.com (予約優先)

ご予約フォーム→



*メールでのご予約は、件名「思考の種まき講座40」とご記入の上、お名前・人数・日中のご連絡先TELを明記ください。
*内容等変更がある場合は、AICTのホームページ等でお知らせします。